



大口町長 鈴木雅博

我々の責務は、先人の知恵と勇氣に習い、次の時代を担う子や孫のために、この大口町の豊かな暮らしを、より良い形で引き継ぐことです。

「土農工商」という言葉の土は武士ではなく、こころざし（志）の志農工商であると言われたことがあります。その意味を次のように説明する方がいます。

『志ある人がいて、次は生命を守り育てるために一番必要な「農」、その次は、生活に必要な道具を作ってくれる「工」、そして、それらの生産物をスムーズに流通させてくれる「商」である。「志」とは、本来、公務員が持つべきもので、みんなの意思を税金の形で集めて、みんなの幸福のために使うことを考えるための仕事である』と。

この先においても町民の皆様方に「大口町に住んで良かった」、「大口町のことを誇りに思う。」など、より幸せを感じていただくために、志を持って『農工商』すべての事業に力を尽くし、行政運営に取り組んでまいりたいと考えています。

私は、先人が培ってきた自立可能なこのまちを、将来の世代に引き継いでいくため、50年後のまちの礎となる、農業をはじめとする産業振興や生活基盤整備の必要性を掲げ、秩序ある土地利用を堅持する中で、積極的な企業誘致に取り組

でまいりました。

それがやつと2020年度以降に実を結びだし、基幹税である固定資産税が増収となつていく見込みです。

また道路網の整備は、将来展望を持って地道に継続して取り組めば、より良い暮らしの実現につながり、産業も活性化させる、大きな可能性を秘めた「まちづくり」であります。

道路工事に合わせて、夜間であっても安心して暮らせるまちを目指し、防犯灯の設置も進めてまいります。

将来、大口町の税構造が景気に左右されないようにするため、50年前に社本初代町長が行った企業誘致を、再度、積極的に進めてきたことにより、固定資産税が徐々に増収となつていく一方では、社会保障費等も右肩上がりに増えていきます。

職員の知恵と工夫を町政に活かさなければ、厳しい財政運営をととも乗り切っていくことはできません。私は職員とともに一丸となつてこの厳しさを増すであろうフィールドに臨み、行政サービスの向上のため、これまでのやり方にとらわれることなく、効率的な町政運営に努めていきたいと考えております。

（令和2年度「施政方針」から抜粋・再編）

